

## テーマ 福祉国家の経済と倫理

- 報告1：アマルティア・セン教授との対話……………(国立社会保障・人口問題研究所長) 塩野谷 祐一  
 報告2：再分配と福祉国家の公共経済学……………(ノルウェー経済経営大学教授) アグナー・サンドモ  
 報告3：厚生経済学と福祉国家……………(一橋大学経済研究所教授) 鈴木 興太郎  
 コメント1……………(京都大学経済研究所教授) 橋木 俊 詔  
 コメント2……………(東北大学教授) 川本 隆 史  
 コメント3……………(国立社会保障・人口問題研究所総合企画部第2室長) 後藤 玲 子  
 コメントへの回答・討論

### 開会の辞

国立社会保障・人口問題研究所長 塩野谷祐一

本日は国立社会保障・人口問題研究所の主催により、日本経済新聞社の後援を得て、厚生政策セミナーを開催するにあたり、多数の皆様方のご参加を頂きまして、主催者として誠に厚く御礼申し上げます。本日のセミナーは「福祉国家の経済と倫理」というテーマを掲げ、5人の専門家をお招きしました。パネリストの簡単な経歴は、お手元のパンフレットに記されておりますのでここでは省略いたします。最初にご了解いただかなければなりません、我々が1年前にこのセミナーを計画した時、もう1人、基調講演をしていただく人としてケンブリッジ大学のアマルティア・セン教授が確定しておりました。セン教授はこのセミナーに参加し、論文を提出することを快諾して下さいました。ところが、昨年末、セン教授はノーベル経済学賞を受賞され、そのため今日に至るまで世界中の色々な記念行事に引き出されるはめとなり、日常的な予定がすっかり狂ってしまったため

に、どうしても約束を果たすことができないという苦しいお申し出がありました。我々としては大変残念でありますけれども、セン教授をお迎えすることができなくなりました。しかしそうであればこそ、我々はセン教授の思想をうかがいたいという一層強い思いを抑えることができません。そこで我々は教授の多忙な日程の中で対談の機会を持ち、教授がこのセミナーに参加していたならば語ったであろう内容の議論を引き出すことができました。本日の午前中の基調講演においては、最初にビデオによりセン教授のお話を約50分ほど放映することにいたします。このビデオの作成にあたっては、NHKのご援助を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

基調講演に先立ち、このセミナーの問題設定について一言申し上げます。今日、社会保障制度の抜本改革が求められていることはご承知の通りであります。ごく一般になされている問題の立て方は、今後人口の少子高齢化が進み、経済成長が鈍化していく中で、医療、年金、介護などの社会保障給付の激増が予想され、しかもその負担は若年層にますます重くのしかかっていき、もはやこれまでの社会保障制度を維持していくことは不可能



であるから、社会保障制度の根本的な見直しが避けられないというものであります。これは、福祉国家の運営が財政的な破綻に直面しているという考え方を表しております。しかし、このような経済一辺倒の議論は果して正しいものでありましようか。経済が人間のためにあるものだとすれば、人間の側からの問題設定がありうるのではないでしようか。

今日、社会保障制度の動揺に直面して見出されるもっとも素朴な反応は、社会保障制度に対する人々の信頼感が低下し、人々が将来の生活に対して不安を抱いているということでありま。社会に対して人々がコミットメントをすること、そして社会における人間の生活のあり方を根底的に問うことが倫理であるとするれば、経済はそのための手段にすぎないと言うことができます。われわれが福祉国家の再構築を論ずるにあたって、普通の議論と違う問題の立て方をするのは、経済の視点

だけからではなく、経済と倫理という二つの視点から問題を取り上げるということにあります。それに加えて、我々が社会保障の倫理的基礎を確認しなければならないと考えるもう1つの理由は、経済社会のあり方を評価する規範的な理論、あるいは倫理的理論が今日劇的な発展を遂げつつあるということでもあります。社会保障に対する右や左、保守や革新といった、従来のイデオロギ的な評価と違って、ジョン・ロールズやアマルティア・センなどによって代表される新しい道徳哲学が展開されつつあります。このような議論が社会保障制度の再構築にあたって、世の中ではあまり議論されていないというのが我々の考え方であり、ここに「福祉国家の経済と倫理」というテーマを掲げた理由があります。この問題設定について、皆様のご批判を頂きたいと思うわけ です。

それでは、基調講演の第一として、セン教授との対話から始めることにいたします。